

## 令和 7(2025)年度 今後の改善計画と実施状況の点検(改善計画・点検シート) 2026.4.1

項目	改善を要する点	改善計画 (担当委員会)	改善計画の実施状況と今後の課題 ※ R7 年度末に点検
1 教育研究上の目的と三つの方針	①現在の医療や創薬を取り巻く環境や薬剤師・研究者に対する社会的ニーズの変化に関する情報収集を行い、教育研究上の目的や三つの方針について、定期的かつ主体的な分析・点検・検証を行うことが必要である。	①現在の医療や創薬を取り巻く環境や薬剤師・研究者に対する社会的ニーズの変化に関する情報収集を体系的に行い、現状の教育研究上の目的や三つの方針を評価委員会において分析・点検し、どのような改訂が必要か検証する。特に、APについては、DPとの整合性および転学科への対応などの観点からの改訂について検討を始める。(評価委員会)	①今年度は、教育研究上の目的や三つの方針の分析・点検および改訂のスケジュールを策定した。具体的な改訂については来年度に実施する。(評価委員会)
	②薬学部 GUIDE BOOK、学生便覧、長崎大学薬学部規定、オリエンテーション資料などにおいて、言葉の使い方が不統一であり、「薬学部の教育目標」「学科の教育目標」「教育研究上の目的」「薬学部の目的」などの定義と使い方を整理することが望ましい。	②学生便覧、長崎大学薬学部規定などにおける「薬学部の目的」などの定義と使い方を整理し、大学全体的な取り決めに従い、可能な範囲の改訂を検討する。(評価委員会)	②教育研究上の目的や三つの方針の改訂とあわせて、具体的な改訂を来年度に実施する。(評価委員会)
	③薬学部 GUIDE BOOK に DP の記載がなく、学年ごとのオリエンテーションでも説明がされていない。どのような人物に学位を与えるのかについて、志願者及び在学生に対して DP に基づいて明確な説明をすることが必要である。	③学年ごとのオリエンテーション(前期、後期)において在学生に対して DP に基づいてどのような人物に学位を与えるのかについて説明する。なお、志願者に対する DP の説明については、薬学部 GUIDE BOOK への別添追補を検討する。(入学試験委員会)	③今年度の学年ごとのオリエンテーション(前期、後期)において在学生に対して DP に基づいてどのような人物に学位を与えるのかについて説明した。(教務委員会)なお、薬学部 GUIDE BOOK への別添追補については、来年度検討する。(入学試験委員会)
	④薬学部 GUIDE BOOK に AP の記載がないため、志願者に対して、本学薬学部で学ぶために必要な資質・能力を、明確に示すことが必要である。	④志願者に対して、本学薬学部で学ぶために必要な資質・能力を、明確に示すために、薬学部 GUIDE BOOK への別添追補を検討する。(入学試験委員会)	④今年度については、オープンキャンパスでは薬学部 GUIDE BOOK への別添配付を実施した。薬学部 GUIDE BOOK への AP の記載については来年度検討する。(入学試験委員会)
	⑤各 CP が DP のどの項目と繋がるのかを明確にし、DP 達成に向けて、学修成果を教育課程の進行に対応して総合的に評価する方法も記載することが必要である。	⑤各 CP が DP のどの項目と繋がるのかを明確にする。さらに、DP 達成に向けて、学修成果を教育課程の進行に対応して総合的に評価する方法の検討を始める。(教務委員会)	⑤教育研究上の目的や三つの方針の改訂とあわせて、具体的な CP の改訂を来年度に実施する。(教務委員会)

2 内部質保証	①教育研究活動の自己点検・評価が計画的に実施されていないので、定期的実施し公表する必要がある。	①教育研究活動の自己点検・評価を計画的に実施するために、年度の自己点検・評価スケジュールを薬学部評価委員会で策定する。さらに、改善計画などを可視化するために改善計画・点検シートを薬学部評価委員会で作成し、改善状況の自己点検結果については、薬学部ホームページで公表する。さらに、薬学部FDによる、改善計画と実施状況の共有を図る。(評価委員会)	①今年度の自己点検・評価スケジュールを薬学部評価委員会で策定した。さらに、改善状況の自己点検結果を実施し、薬学部ホームページで公表した。来年度には、定期的な改善計画および実施点検を行うとともに、薬学部FDにおいて、実施状況の共有を図る。(評価委員会)
3 薬学教育カリキュラム	①卒業時の総合評価を行うため、2024年度入学者からは全学的な取組として長崎大学ディプロマ・ポリシーに対応したルーブリック自己評価とメンターによるフィードバックを行っている。このような様々な観点を統合した卒業時総合評価を策定する必要がある。	①2025年度入学者から総合評価(下村脩博士記念成績優秀者賞、マイスター認定)に対して学修ポートフォリオ入力率100%と学部長指定のボランティア(薬学科3回、薬科学科2回)を必要条件として設定する。さらに、ディプロマサプリメントを活用した総合評価を有機的に取り入れる検討を行う。(教務委員会)	①2025年度入学者から総合評価(下村脩博士記念成績優秀者賞、マイスター認定)に対して学修ポートフォリオ入力率100%と学部長指定のボランティア(薬学科3回、薬科学科2回)を必要条件として設定した。さらに、ディプロマサプリメントを活用した総合評価を有機的に取り入れた卒業認定を実施した。(教務委員会)
	②基礎科学英語及び科学英語は、主として科学及び研究に関する英語(原著論文)について学ぶ科目であり、「医療の進歩・変革に対応し、医療現場で活用できる語学力を身につける教育」は実施されていないので、改善する必要がある。	②基礎科学英語及び科学英語は、卒業研究に関する導入科目である。臨床に関連する語学力は、臨床薬学に関する英語(原著論文)について、新コアカリキュラムの新科目5年次「応用科学英語」で実施する予定であり、その内容を検討する。(教務委員会)	②臨床薬学に関する英語(原著論文)について、新コアカリキュラムの新科目5年次「応用科学英語」で実施する予定であり、その内容を検討した。(教務委員会)
	③【観点 3-1-1-3】にある、「教育課程及びその内容、方法の適切性について検証され、その結果に基づき必要に応じて改善・向上が図られていること」が組織的に行われる必要がある。	③「教育課程及びその内容、方法の適切性について検証され、その結果に基づき必要に応じて改善・向上が図られていること」は、今後、評価委員会において検証し、改善・向上を目指す予定である。(評価委員会)	③来年度初めに、評価委員会において、教育課程及びその内容、方法の適切性について検証するための根拠資料を定め、点検評価して、改善・向上を目指す。(評価委員会)
	④DP1～7達成のための各個別教科の関係性は記載されているが、DPの到達度に向けた科目の順次性が不明確で、到達目標にDPが関連付けられていないので、学生にとってわかりやすく可視化する必要がある。	④追加資料で横軸にDP1～7を、縦軸に学年別で「必須」、「選択必須」、「選択」科目別に整理して、どの学年でどのDPに関連する学修が行われるかを明確化する。今後、学生便覧に明記していく。シラバスには、各科目の到達目標欄に「関連するDP番号」を明記している。(教務委員会)	④追加資料で横軸にDP1～7を、縦軸に学年別で「必須」、「選択必須」、「選択」科目別に整理して、どの学年でどのDPに関連する学修が行われるかを明確化し、来年度の学生便覧に明記した。(教務委員会)
	⑤医療薬学特別実習の評価が、複数人による客	⑤医療薬学特別実習は、「卒業研究の基盤とな	⑤医療薬学特別実習については、「医療薬学

<p>観的な指標によっているとは判断できないので改善が必要である。</p>	<p>る知識・技能態度」、「卒業論文」、「卒業論文発表」、「問題解決能力の習得（総合評価）」の観点で「医療薬学特別実習評価ルーブリック」により客観的な指標で研究室の複数名（2～3名）の教員により評価している。また、「卒業論文発表」は、「医療薬学特別実習評価ルーブリック」をもとに他の研究室の教員1名の意見を併せて評価も組み入れ、副査教員の卒業研究評価への関与を明確にする。（教務委員会）</p>	<p>特別実習評価ルーブリック」により客観的な指標で研究室の複数名（2～3名）の教員により評価してきたが、他の研究室の教員1名の意見を併せた「卒業論文発表」評価を今年度に試験的に実施した。来年度には、医療薬学特別実習のシラバスに副査教員の卒業研究評価への関与を明記し、他の研究室の教員1名の意見を併せた評価を正式に実施する。（教務委員会）</p>
<p>⑥学生全員に対して「研究成果の医療や薬学における位置づけの考察」を要求していることが確認できないので、改善が必要である。</p>	<p>⑥「研究成果の医療や薬学における位置づけの考察」の有無を「医療薬学特別実習評価ルーブリック」に○（記載有：合格）、×（記載なし：不合格）形式で追記する方向で検討していく。（教務委員会）</p>	<p>⑥「研究成果の医療や薬学における位置づけの考察」の有無を「医療薬学特別実習評価ルーブリック」に今年度追記した。（教務委員会）</p>
<p>⑦シラバスに、「再試験を実施するか否か」が記載されていない科目が多いので、すべての科目で記載する必要がある。</p>	<p>⑦全ての科目でシラバスに「再試験を実施するか否か」を記載する方向でシラバス記載を徹底し、関連規定の見直しを検討する。（教務委員会）</p>	<p>⑦来年度のシラバスには、再試験実施の有無および受験の条件を記載することとした。再試験の関連規定の見直しについては、来年度検討する。（教務委員会）</p>
<p>⑧シラバスに、評価内容が数値で書かれていない科目があるので、すべての科目で記載する必要がある。</p>	<p>⑧全ての科目でシラバスに「評価内容を数値」で記載し、シラバス記載事項の遵守徹底を図り、成績評価を厳格化する方向で検討していく。（教務委員会）</p>	<p>⑧来年度シラバスへの「評価内容を数値」で記載する遵守徹底を実施した。（教務委員会）</p>
<p>⑨卒業研究は15単位だが、これが何時間に相当するかの定義が薬学部規定には明記されていないので、規定する必要がある。さらに、卒業研究実施を担保するエビデンスを残す必要がある。</p>	<p>⑨卒業研究である「医療薬学特別実習」は、名称に実習と記載されているように実習科目であり、そのように説明をしており、教員、事務、学生もそのように認識はしている。長崎大学では卒業研究に関わる実習を卒業研究と記載しているが、改善の必要性を検討する。さらに、卒業研究の実施を担保する実験ノート提出を検討する。（教務委員会）</p>	<p>⑨薬学部規定に、卒業研究の項目および時間数を明記した。卒業研究実施を担保するエビデンスについては、卒業研究の実施を担保する実験ノート提出などを来年度検討する。（教務委員会）</p>
<p>⑩教育課程の進行に対応した学修成果の評価基準を示し、DPへの到達度を適切に段階的・総合的に評価する必要がある。</p>	<p>⑩「教育課程の進行に対応した学修成果の評価基準を示し、DPへの到達度を適切に段階的・総合的に評価する」については、今後、教務委員会において評価方法を検討していく。（教務委員会）</p>	<p>⑩教育課程の進行に対応した学修成果の評価基準およびDPへの到達度の段階的・総合的な評価については、今年度の状況を踏まえて、教務委員会において評価方法を来年度検討していく。（教務委員会）</p>

	①学修成果の評価が十分に行われておらず、学修成果の評価結果を教育課程の編成及び実施の改善・向上に活用していないので、改善する必要がある。	①「学修成果の評価」については、今後、薬学部評価委員会において評価方法を検討し、学修成果の評価結果を教育課程の編成及び実施の改善・向上に活用していく。(評価委員会)	①学修成果の評価方法および教育課程の編成及び実施の改善・向上への活用方法については、今年度の状況を踏まえて、来年度検討する。(評価委員会)
	②薬学部規定において、科目履修判定の学年次の表記が曖昧で、学生が混乱する可能性があるため、工夫が必要である。	②薬学部規定の科目履修判定の学年次の表記に関して、学生が混乱しないような工夫を検討する。(教務委員会)	②来年度の薬学部規定改訂の際に、科目履修判定の学年次の表記の工夫を検討する。(教務委員会)
4 学生の受入れ	①薬剤師の資格を取った上で博士号までを取得する人材が極めて少ないため、薬学科においてそのような人材を積極的に育成することを目的として入学希望者を集める必要がある。	①2026年度入試より学校推薦型選抜Ⅱに、博士課程への進学を確約できることを出願要件とした「薬学研究枠」(募集人員2名)を新たに設けた。出願者には、博士課程進学の意義や薬学における研究を深く理解してもらうことを目的として「長崎大学薬学部・薬学研究ゼミナール」を今年度から開催する。(入学試験委員会)	①2026年度学校推薦型選抜Ⅱ入試より新たに設けた「薬学研究枠」の出願者には、博士課程進学の意義や薬学における研究を深く理解してもらうことを目的として「長崎大学薬学部・薬学研究ゼミナール」を今年度開催した。(入学試験委員会)
	②R7年度入試より薬学科の一般選抜・前期日程試験に導入した面接の効果を見極めるため、面接の得点とその後の成績や進路との関係などを注意深く分析する必要がある。	②半期ごとに成績等のデータを集計、分析する。必要に応じて、面接の実施方法や得点設定などの変更を検討する。(入学試験委員会)	②2025年度前期入学者の半期ごとの成績等のデータを集計・分析した。今年度の状況を踏まえて、面接の実施方法や得点設定などの変更については、来年度検討する。(入学試験委員会)
	③学校推薦型選抜Ⅱと一般選抜でそれぞれ入学した学生の成績や進路等の追跡調査および進路実現に向けたフォローアップが必要である。	③②と同様にデータを集計、分析する。両学科とも、学校推薦型選抜Ⅱにおいては卒業後の進路を要件に加えているため、それを学生本人に自覚させるような取り組み(メンターとの面談など)を低学年から取り入れて行く。(入学試験委員会)	③学校推薦型選抜Ⅱで入学した学生の成績や進路等の追跡調査を実施した。(入学試験委員会)さらに、学校推薦型選抜Ⅱで入学した学生については、メンターとの面談(今後受講して欲しい科目や卒業後の進路など)を来年度から各期毎に実施することとした。(教務委員会)
5 教員組織・職員組織	①教育研究上の目的に沿った教育研究活動を継続するための、次世代を担う教員の養成のためのキャリアアップ体制が存在しないので、体制や制度を構築することが望まれる。	①教育研究上の目的に沿った教育研究活動を継続するため、次世代を担う教員の養成のためのキャリアアップ体制や制度の構築の検討を始める。(教授会)	①次世代を担う若手教員養成のためのキャリアアップ体制や制度の構築検討のため、来年度には現状の体制・制度の見直しの検討を実施する。(教授会)
	②薬学部の教育及び研究を実施するための、教員組織の編成方針を定めることが必要である。	②薬学部の教育及び研究を実施するための、教員組織編成方針の策定の検討を始める。(教授会)	②他大学の事例を参考に、教員組織編成方針の策定の検討を来年度に始める。(教授会)

	③再任に関わる内規には、再任審査申請書と再任審査資料の提出後、審査結果の通知までの期間を縛る条文がないことは問題であり、改善する必要がある。	③再任に関わる内規について、再任審査申請書と再任審査資料の提出後、審査結果の通知までの期間を縛る条文を盛り込むことを、生命医科学域会議において改訂を検討する。(教授会)	③再任に関わる内規の改訂について、生命医科学域会議において来年度検討する。(教授会)
	④女性教授率は長崎大学の目標を達成しているものの、全体の女性教員率は低いため、女性教員率向上へ向けたさらなる努力が必要である。	④女性教員率向上へ向けた対策および仕組み構築を検討する。(将来構想委員会)	④女性教員率向上へ向けた対策および仕組み構築の検討を今年度開始し、来年度には方向性を明確にする。(将来構想委員会)
	⑤若手教員の研究力強化へさらなる努力が必要である。(将来構想委員会)	⑤若手教員の研究力強化へ向けた方策の検討を開始する。(将来構想委員会)	⑤若手教員の研究力強化へ向けた方策の検討を今年度開始し、来年度には方向性を明確にする。(将来構想委員会)
6 学生の支援	①実務実習に行く学生のワクチン接種の事実・抗体価が把握されていないので、改善が必要である。	①実務実習に参加する学生は全員予防接種履歴証明書を提出しており、本学ではワクチン接種の事実を明確に把握している。また、学生の予防接種実施作業部会における2回接種優先抗体検査は不要との決定事項に従い、抗体検査をせずに1年次に4種の2回接種を完了させている。従って4年生の抗体検査はB型肝炎のみ行っている。引き続き、学生のワクチン接種に関して、把握に努める。(実務実習委員会)	①実務実習に参加する学生のワクチン接種の事実・抗体価の把握については、本学の取り決めに従い適切に実施されていることを確認した。今後も引き続き、学生のワクチン接種に関して、把握に努める。(実務実習委員会)
	②実務実習に参加した学生は全員、定期健康診断を受診する必要がある。	②2026年度のシラバスにおいて、実務実習の受講要件(履修条件)に健康診断の受診を明記するとともに受診の済否を把握する。(実務実習委員会)	②来年度のシラバスにおいて、実務実習の受講要件(履修条件)に健康診断の受診を明記し、受診の済否を把握することとした。さらに、その他の実習科目についても、受講要件(履修条件)に健康診断の受診を明記した。(実務実習委員会)
	③学生への対応フローチャートが整備されていないものがあるので(休学・退学の可否、意見箱の対応等)、策定する必要がある。	③学生への対応フローチャート(休学・退学の可否、意見箱の対応)を策定する。(学生委員会)	③学生への対応フローチャート(休学・退学の可否、意見箱の対応)を今年度策定した。(学生委員会)
7 施設・設備	坂本地区移転構想においては様々な課題があるものの、現状の施設・設備では、特に改善事項なし。		

8 社会連携・社会貢献	①長崎大学薬学部のホームページにおいて、国際交流関係の情報を定期的にアップデートし、さらに関連の情報（長崎大学留学生教育・支援センターの紹介動画など）にアクセスする方法を分かりやすくする必要がある。	①長崎大学薬学部のホームページにおいて、国際交流関係の情報を定期的にアップデートし、さらに関連の情報（長崎大学留学生教育・支援センターの紹介動画など）にアクセスする方法を分かりやすくする。（広報委員会）	①長崎大学薬学部ホームページの国際交流関係の情報やリンクなどを今年度アップデートした。引き続き、定期的な更新に努めていく。（広報委員会）
	②育薬研究教育センターが主導する「心房細動スクリーニング」による社会貢献活動状況については、長崎大学薬学部のホームページの「育薬研究教育センター」ページに集約する必要がある。	②育薬研究教育センターが主導する「心房細動スクリーニング」による社会貢献活動状況については、長崎大学薬学部のホームページの「育薬研究教育センター」ページに集約する。（広報委員会）	②長崎大学薬学部ホームページの育薬研究教育センター関係の情報やリンクなどを今年度アップデートした。引き続き、定期的な更新に努めていく。（広報委員会）
9 研究	①学術論文については、さらなる論文数の向上や、質の向上が望まれる。	①研究活動の活性化、モチベーション向上、および異分野融合促進を目的として、下村脩博士記念薬学部研究教育賞・研究奨励賞の顕彰・研究発表会、最先端創薬科学ワークショップ、およびニューフェイス講演会を引き続き開催する。一方、大学院生の研究能力向上を目的に、新たな表彰制度を検討する。（教授会）	①研究活動の活性化やモチベーション向上、および異分野融合促進を目的とした各種講演会などを今年度も実施した。大学院生の研究能力向上を目的とした表彰制度などの取り組みについては来年度検討を開始する。（教授会）
	②科研費などの競争的研究資金の採択数は一定程度あるものの、申請数の増加や採択率のさらなる改善、加えてより上位の研究種目への採択が望まれる。	②科研費獲得に向けては、全学や医歯薬学総合研究科における各種ブラッシュアップを奨励するとともに、薬学部独自ブラッシュアップを引き続き実施して採択率向上に努める。また、申請数と採択数に応じた学部内予算のインセンティブを設定することで外部資金獲得向上を図る。（教授会）	②科研費獲得に向けては、薬学部独自ブラッシュアップを今年度も実施した。今後も引き続き、採択率向上に努めていく。また、学部内予算のインセンティブについては、e-Rad 経由の外部資金獲得・申請について、今年度から含めることとした。（教授会）
10 学生の受け入れ（大学院）	①博士後期課程において、実入学者数が入学定員を大幅に下回っている点について改善を要する。	①薬科学科学校推薦型選抜の受験者を増加させるため、博士前期課程の志願者も減少傾向にあることから、「博士後期課程または博士課程まで進学することを確約できる者」としていた出願要件を、「博士前期課程に進学することを確約できる者」に緩和し、博士前期課程入学者を確保した上で、博士後期課程へ進学する動機付けを行う。（入学試験委員会） 薬学概論における研究キャリアに関する講義をとおして、大学院進学と博士号取得の重	①今年度の博士後期課程入学者は10名で定員を満了した。博士後期課程全体の5年充足率も70%となり、認証評価の基準に達した。 薬科学科学校推薦型選抜の受験者を増加させるため、出願要件を「博士前期課程に進学することを確約できる者」に緩和したところ、志願者は11名で2名が合格した。引き続き、志願者を増やすように努めていく（入学試験委員会）

		<p>要性に対する理解の深化をはかる。また、薬学部薬科学科3,4年生、博士前期課程学生を対象とした大学院進学説明会を引き続き実施するとともに、博士号取得への意識向上を目的とした各種講演会を開催する。(教務委員会)</p> <p>学生の研究意欲の向上による博士後期課程への進学率増加を期待してR5年度入試より導入した「特別入試」の効果を検証し、今後の改善につなげる。(教務委員会)</p> <p>薬学系教授公募では、大学院学生(博士後期課程相当)の研究指導実績を選考時に評価することとした。また、研究室ごとに博士後期・博士課程学生の入学定員充足率に大きな差があることから、現在の教授についても、大学院学生(博士後期課程相当)の研究指導実績を自己点検・評価して、博士後期課程への進学率増加へ向けた具体的な対策を講じていく。(教授会)</p>	<p>薬学概論における研究キャリアに関する講義を今年度も実施して、大学院進学と博士号取得の重要性に対する理解の深化を図った。また、薬学部薬科学科3,4年生、博士前期課程学生を対象とした大学院進学説明会を今年度も引き続き実施するとともに、博士号取得への意識向上を目的とした各種講演会を開催した。さらに、今年度については、全国の薬学生がワークショップに集い課題解決型学習に取り組んできた貴重な学びを、長崎大学薬学部を代表して参加した学生が同級生や先輩・後輩に伝え、今後の多様なキャリアへの理解を深めてもらうために、全国薬学生ワークショップ報告会を開催した。(教務委員会)</p> <p>R5年度入試より導入した「特別入試」の効果を来年度検証し、今後の改善につなげていく。(教務委員会)</p> <p>今年度の薬学系教授公募においても、大学院学生(博士後期課程相当)の研究指導実績を選考時に評価することとした。現在の教授については、大学院学生(博士後期課程相当)の研究指導実績を今年度に自己点検・評価して、博士後期課程への進学率増加へ向けた具体的な対策を講じてもらうこととした。(教授会)</p>
--	--	--	---